

オンラインぼうさいこくたい2020広島  
「ひとり」を「独り」にしない復興支援のカタチ

## これからの取組みと取組み方

兵庫県立大学大学院

減災復興政策研究科

澤田雅浩

sawada@drg.u-hyogo.ac.jp



# Build Back Better

災害は持続的発展を阻害するもの  
災害への備えの向上と国際協力に支持される  
「より良い復興 ( **Build Back Better** )」への取組みが必要  
そのためには先人の経験や伝統的知見を活かすこと

国連世界防災会議 仙台防災枠組2015-2030



災害は

その地域が元来抱えていた課題を  
顕在化させるとともに前倒しする・

課題とは・・・

平常時の生活環境としての課題  
災害に対する備え不足（脆弱性の顕在化）



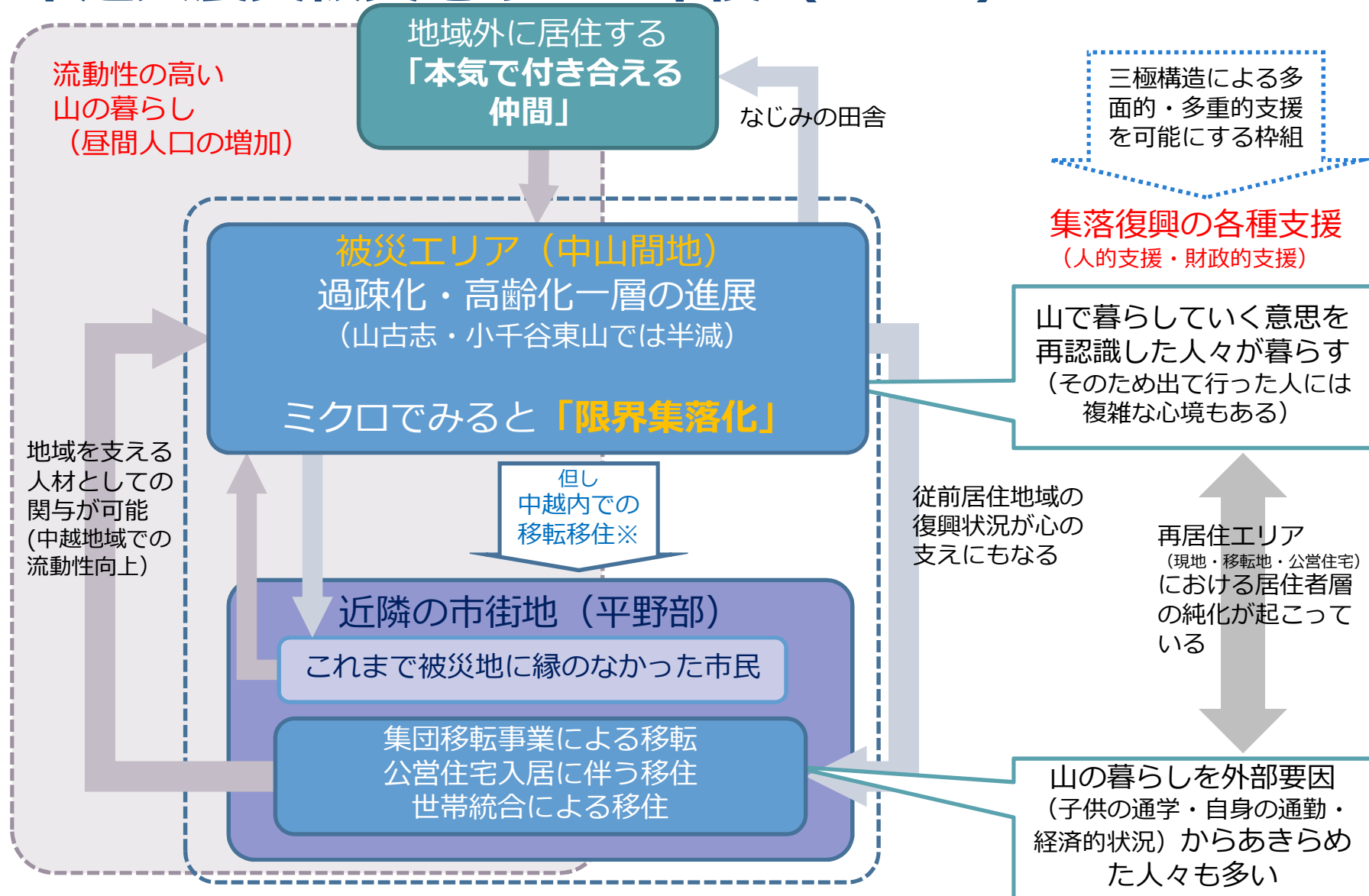
自然災害が頻発する現代において  
復旧・復興に合わせて取り組むべきこと

- 1 ) 脆弱性を構成する要因を把握する
- 2 ) 脆弱性を低下させるための取組みを進める

これらに対自然災害のみならず、  
暮らし全般としてとらえ、  
事後、一気呵成に進めるのが  
自然災害からの復旧・復興ともいえる。



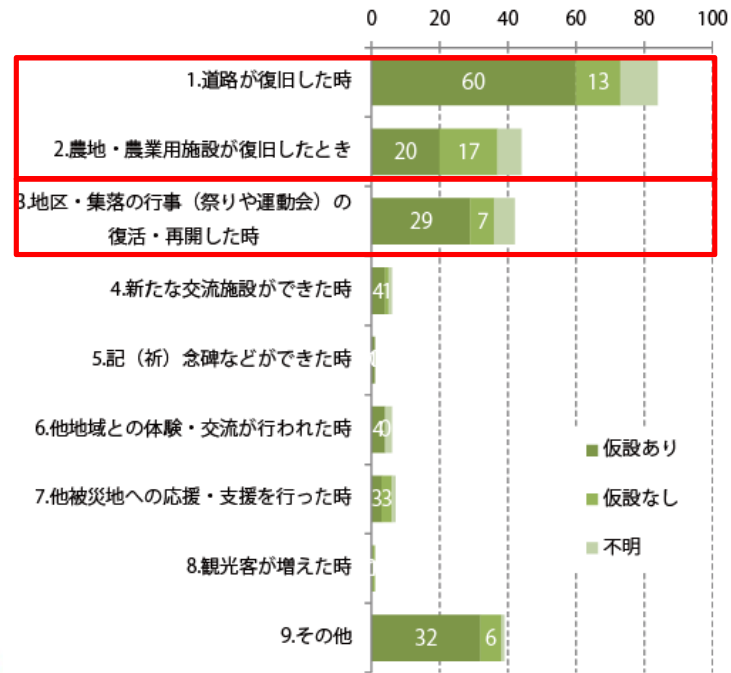
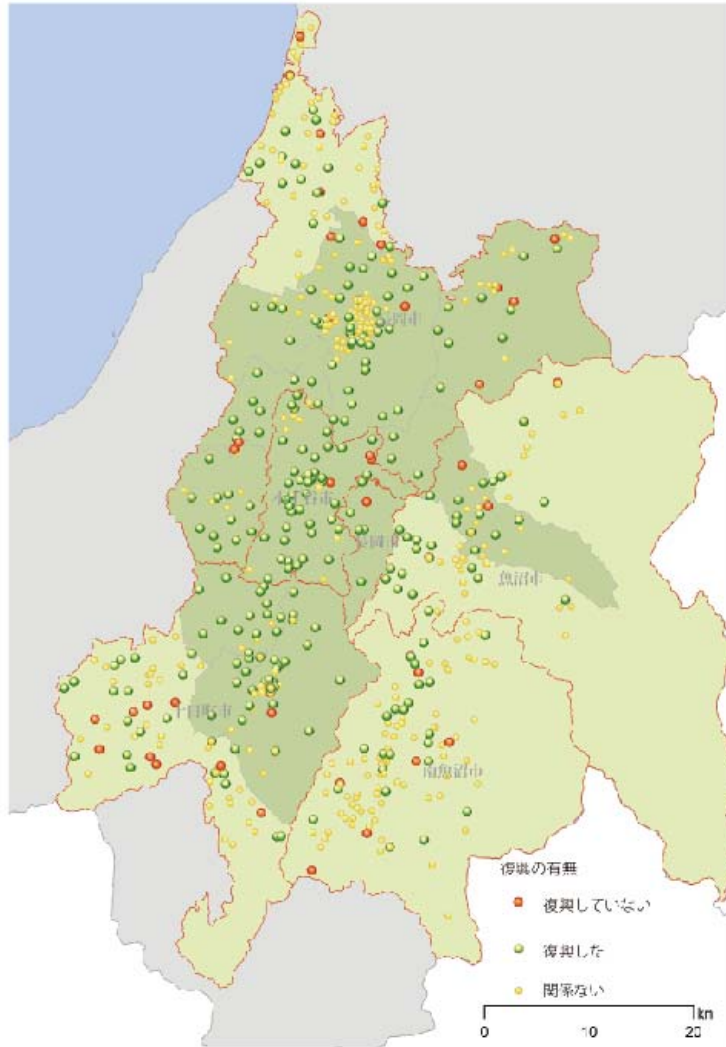
# 中越大震災被災地の10年後（2014）



※調査対象地（長岡・小千谷・十日町・魚沼）において  
市内での再建割合96.2%（自宅再建割合84.6%）  
調査対象地域の人口減少5%（24,319人）【H12/22国調比較】

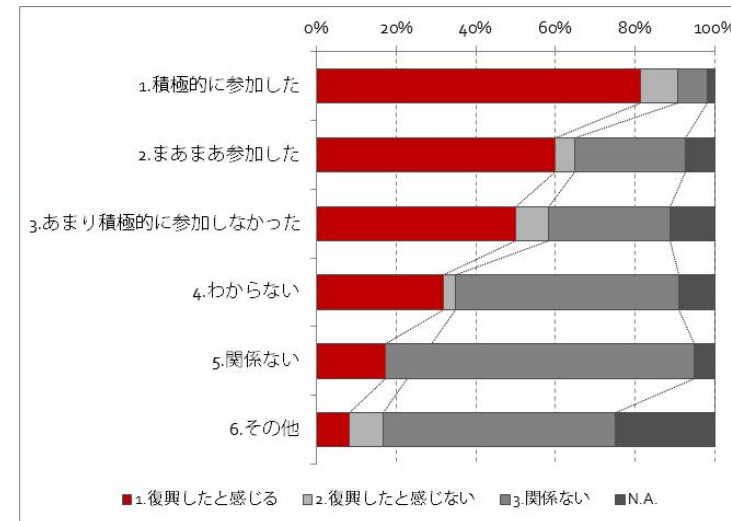


# 「復興」感をもたらすものは何か



インフラ系の復旧

行事の復活

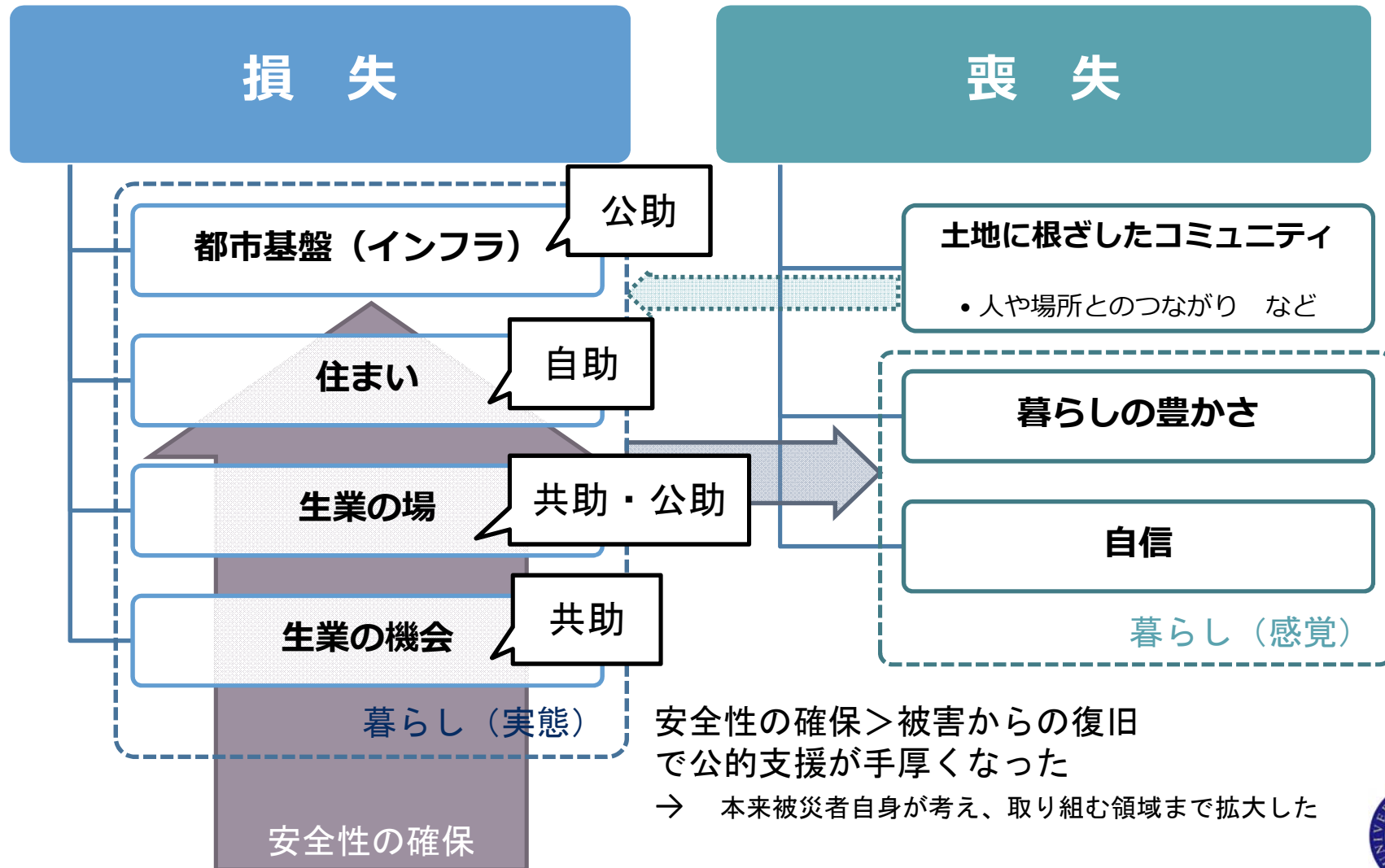


住民の積極的参画が復興感をもたらす



# 損失と喪失からの回復と担い手

- ・ 災害によって失われるものとその回復





「あのおばあちゃん、避難所に来てからだんだん歩けなくなってきた。少し痴呆も進んだみたい。村では草取りもご飯の支度も自分でしてきたのに」









石ころだらけの土地が、住み慣れた山古志から  
遠く離れたニュータウンにできた仮設住宅に  
入居された被災者の手で素晴らしい畑に様変わり





集落再生支援チーム

行政（県・市町村）・中間支援組織が現場に赴き住民と車座になって議論





集落再生支援チーム

行政（県・市町村）・中間支援組織が現場に赴き住民と車座になって議論





# 地域復興交流会議（集落同士のつながりづくり）

流会議



# 被災当事者による情報交換（課題や成功事例の共有）





# 山古志・虫亀（むしがめ）多菜田



地域の女性が「ふだんのごっつお」を提供  
営業は昼のみ  
復興基金で開業資金の一部を充当

## さいごに

「ひとり」を「独り」にしない復興支援のカタチ

エンパワーメント

地域や地域の人を主語にした支援

サポート

まだ自分だけでは立ち上がれない、立ち直れない人  
に対する支援

エンパワーメントとサポートの上手な組み合わせが大切になる



# 土砂災害における被災者支援活動の課題について

活動事例	対象地区	連携先	活動時期、役割、課題	対処法
被災宅地・崖地 ハード対策 相談支援  (福祉系支援と 技術系支援の 連携課題)	広島県安芸郡 坂町	・坂町災害 たすけあいセン ターVC	【活動時期】 発災後1ヵ月以内の復旧期 【役割】 19被災箇所にて地区会長と出向き、住民や消 防団による応急措置後の対処法相談	復旧期の早い時期に、現地調査後 の相談回答を報告書に取りまとめ、 各地区長へ提示
	広島県尾道市	・広島県地域支え 合いセンター  ・尾道市支え合い センター	【活動時期】 発災後1年半後の復興期 【役割】 被災世帯宅周辺の崖崩れ発生後1年半経過しても ブルーシート被覆等による応急措置のままで復旧工 事の見込みのない27箇所への対処法を机上で検討し、 センター相談員が各世帯に説明 【課題】 <b>坂町のケースのように、復旧期の早い段階でVC や支え合いセンターからの依頼を受けて対処法を検 討し、被災者や行政へ改善策を伝える必要があった。</b>	・ほとんどの被災箇所が警戒区域 指定を受けており、行政のハー ド対策は直ぐには実現できない が、警戒避難体制等のソフト対 策支援の必要性を提案  ・高齢の独居者で最低限のブルー シートの張替えが必要な箇所は 市の危機管理担当から消防団へ の依頼は可能との回答
土石流流出地区 復旧・復興 まちづくり支援  (行政、自治会、 住民団体との調 整課題)	広島県安芸郡 熊野町 川角地区 大原ハイツ	・大原ハイツ 復興の会  ・防災士	【活動時期】 復旧期と復興期 【役割】 平成26年8月広島豪雨災害時に復旧・復興まちづ くり実績のある自治会への相談、行政への要望書作 成のためのアンケート調査実施を提案して支援活動 を開始し、その後、自主防災会を立ち上げ、避難 マップと警戒避難マニュアル作成支援 【課題】 <b>「復興の会」は全世帯の6割からなる住民団体の ため、行政との連携を考えると自治会と連携した自 主防災会活動が望まれた。 (町内会に未加入の住民も存在)</b>	・平成26年8月広島豪雨災害時の 復旧・復興まちづくり支援経験 のある防災士に、復興の会の役 員会等へ参加し、行政、自治会 等との調整役を依頼  ・自主防災会と復興の会が連携し た警戒・避難体制の見直しと 行政のハード対策への要望に関 する勉強会開催の支援予定



# 被災宅地・崖地ハード対策相談支援事例（広島県安芸郡坂町）

坂町【横浜小学校区】横浜三部地区住民福祉協議会 相談受付・回答票

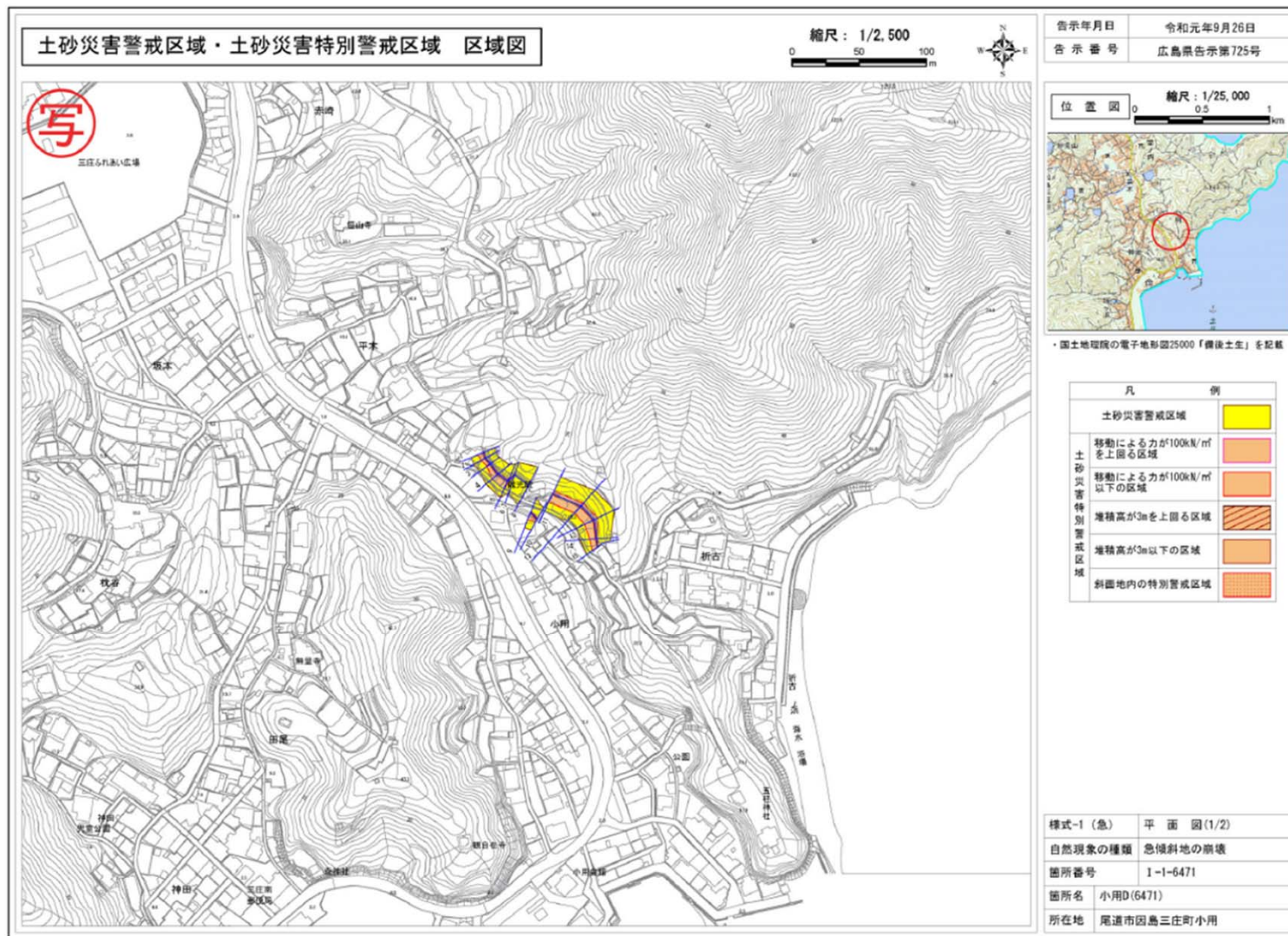
相談受付 No.	受付日時	受付者氏名
横浜三部-1 調査箇所-⑫	8月10日（金曜日）10時55分	古川智、山下祐一

相談依頼者	名前 I協議会会長	依頼者区分	<input checked="" type="checkbox"/> 協議会会長 <input type="checkbox"/> 住民 <input type="checkbox"/> その他（ ）
相談内容区分	<input type="checkbox"/> 道路の応急復旧 <input type="checkbox"/> 自宅建物周辺・建物内の土砂撤去 <input type="checkbox"/> 土石流の応急復旧（河川護岸の復旧） <input checked="" type="checkbox"/> 崖崩れの応急復旧 <input type="checkbox"/> その他（ ）		
相談対象場所	【住所】：横浜東2丁目 【付近の目標物】：⑫ 【土砂災害警戒区域等指定の状況】土石流として警戒区域指定済 I-3-75-863 隣 植田川支流(863 隣)		
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅裏の擁壁の上に滑落崖を持つ崩壊があり、一部擁壁も壊れており、不安である。</li> <li>自宅裏の擁壁前の雨水処理ができていない。</li> </ul>		
現地調査結果(回答)	被災原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島呉道路の側道斜面が崩れ、自宅の横に動くとともに、宅地も吸い出され、宅地の一部が流出した。消防団によるブルーシート被覆により表面浸透防止がなされている。</li> </ul>	
	二次被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>自宅裏の擁壁の上に滑落崖を持つ崩壊があり、一部擁壁も壊れている。</li> <li>自宅下流側の土砂流出には現在土嚢を置いて応急復旧しているが、この宅地が盛土の場合、雨水処理を十分していないと、さらに土砂流出の恐れがある。</li> </ul>	
	対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>擁壁が少し動いていることに対する応急措置として、滑落部分を含んで上部の擁壁までブルーシートを張り、雨水が滑落崖に浸透して崩壊土砂を不安定化させないことである。</li> <li>また、雨水処理のため擁壁の家側に土嚢を置いて、その上にブルーシートを敷いて仮排水路とし、元の水路に流すようにする必要がある。</li> </ul>	
坂町への確認	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> その他		
回答連絡先	名前 I協議会会長	TEL ( )	—
回答日時	8月18日（土曜日）		
特記事項			





# 被災宅地・崖地ハート対策相談支援事例（広島県尾道市）





# 土石流が流出した地区の復旧・復興まちづくり支援(大原ハイツ)

開催日 (場所)	参加者	内容
第1回 2019.2.16 (熊野町民体育館)	技術士会4名、広島大学1名 防災士会1名、復興の会役員5名 <b>大原ハイツ住民34名</b> 、その他住民18名 熊野町	<ul style="list-style-type: none"> <li>「土砂災害発生メカニズムと今後の危険性について」(広大)</li> <li>「土砂災害ハード対策について」(技術士会)</li> </ul>
第2回 2019.4.7 (熊野町民体育館)	技術士会6名、建協防災委員会3名 防災士会2名、 <b>大原ハイツ住民27名</b> その他住民13名、熊野町	<ul style="list-style-type: none"> <li>警戒・避難について(建協)</li> <li>避難マップについて(建協)</li> </ul>
第3回 2019.4.21 (熊野町民体育館、大原ハイツ)	技術士会6名、建協防災委員会3名 防災士会2名、 <b>大原ハイツ住民24名</b> その他住民5名	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災まち歩き</li> <li>避難マップの作成作業</li> </ul>
第4回 2019.5.19 (くまの・みらい交流館)	技術士会9名、防災士会2名 <b>大原ハイツ住民20名</b> 、その他住民8名 熊野町	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難マップの修正</li> <li>土砂災害警戒避難マニュアル</li> <li>避難訓練について</li> </ul>
第5回 2019.6.2 (大原ハイツ、熊野町民体育館、くまの・みらい交流館)	技術士会10名、広島弁護士会4名 防災士会1名、 <b>大原ハイツ住民54世帯83名</b> 熊野町 地域支え合いセンター4名	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難訓練実施</li> <li>交流会(カレー作り、AEDの使い方訓練等、昼食交流)</li> </ul>



大原ハイツ土砂災害警戒・避難マニュアル(暫定基準案)

令和元年(2019)5月19日現在

※気象庁や行政の情報は大いに参考になりますが、必ず頼りになることは避けられません。様々な情報を総合的に判断して、最後は自分で決断する事が大事です。

警戒レベル	土砂災害に関する気象情報	熊野町の対応	住民が取るべき行動
<b>5</b> 極めて危険	「大雨特別警報」が発表された場合 ・現状で「土砂災害警戒情報」の基準に到達した場合 ・土砂災害警戒判定メッシュ情報に「極めて危険」の濃い紫色が表示された場合	<b>「災害発生情報」を発表</b>	既に災害が発生している状況であり、 <b>自分の命を守るための最善の行動をする。</b>
<b>4</b> 非常に危険	・3時間先までに「土砂災害警戒情報」の基準に到達すると予想された場合 ・土砂災害警戒判定メッシュ情報に「非常に危険」の濃い紫色が表示された場合(黒はオレンジ色)	<b>「避難勧告」を発令</b> ・「避難指示(緊急)」※緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令	<b>全員避難</b> ・命に危険が及ぶ土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況なので、速やかに熊野町民体育館等への避難行動をとる。 ・災害が発生するおそれが極めて高い状況等で、熊野町民体育館への避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと思われる場合には、避難の安全な場所への避難や建物内のより安全な部屋への移動等の緊急避難をする。
<b>3</b> 警戒	・2時間先までに「大雨警報」の基準に到達すると予想された場合 ・土砂災害警戒判定メッシュ情報に「警戒」の赤色が表示された場合(黒は黄色) 【参考】大原ハイツ雨量計で、「3時間雨量」が70mmに達した場合	<b>高齢者等は避難</b> 「避難準備・高齢者等避難開始」を発令 ・指定避難所(熊野町民体育館)を開設	避難に時間のかかる <b>高齢者・乳幼児・妊婦・障害者等</b> は、速やかに立ち退き避難する。 ・その他の者は立ち退き避難の準備をし、自発的に早めに避難する。
<b>2</b> 注意	・2時間先までに「大雨注意報」の基準に到達すると予想された場合 ・土砂災害警戒判定メッシュ情報に「注意」の黄色が表示された場合(黒は緑色) 【参考】大原ハイツ雨量計で、「3時間雨量」が40mmに達した場合	<b>注意喚起・自主避難の呼びかけ</b> ・自主避難所(くまの・みらい交流館)を開設	「避難マップ」により、危険箇所、一時退避場所、指定避難所、避難経路、避難のタイミング等の再確認、避難情報の把握手段を再確認・注意、非常時持ち出し品の確認、家族の連絡先を確認など、 <b>避難に備え自らの避難行動を確認する。</b> ・危険を感じる住民は自主避難する。
<b>1</b>	・2時間先までに「大雨注意報」の基準に到達しないと予想された場合 ・大雨警報級の可能性について、気象庁が発表した場合	<b>状況把握</b> ・今後の情報等に留意	・防災気象情報等の最新情報や周囲の状況、雨の降り方に注意するなど、 <b>災害への心構えを高める。</b>

※土砂災害警戒判定メッシュ情報が低くても、行政から避難情報が出たり、自分の周りの様子で危険を感じたら身を守るために避難しましょう。

※川角5丁目(大原ハイツ・グリーンタウン等)は、砂防堤が完成するまで「警戒レベル4、避難勧告」を通常より1時間早く発令します(熊野町の方針)



令和元年 5 月 15 日

大原ハイツの皆さまへ

## 第5回 防災勉強会 避難訓練および交流会のお知らせ

今回の勉強会は、前回作成した「避難マップ」や「土砂災害警戒避難マニュアル」に基づいた避難訓練の実施の他、交流会も合わせて行います。犠牲者を一人も出さないために、警戒、避難体制を万全にしたいと考えていますので、これまでの勉強会に参加されていない方々もぜひご参加下さい。

今回は、大原ハイツから転出された方にも案内をお送りしています。交流会だけの参加もできますので、懐かしい顔ぶれに会いに、ぜひお越しください。

日時 令和元年6月2日(日) 午前9時～午後1時

場所 大原ハイツ⇒熊野町民体育館⇒くまのみらい交流館

内容

【避難訓練】大原ハイツ⇒一時避難場所⇒町民体育館（午前9時～）

- ① 午前9時に避難勧告発令（防災行政無線、サイレン、連絡網）各班の班長が避難の呼びかけを行い、要支援者の避難支援を行う
- ② 避難マップに書かれた危険箇所や一時退避場所、避難ルートを確認しながら町民体育館へ避難する。
- ③ 避難者は、町民体育館で受付し安否確認を行う。

【各自みらい交流館へ移動】

問い合わせ先：川角大原ハイツ自主防災会（仮称）野田まで 090-7548-9007

雨天決行

【交流会】くまのみらい交流館（午前10時30分～）

- ① カレーづくり
- ② AEDの使い方訓練、簡易担架の作り方講習  
車イスの押し方体験、子どもの遊び場コーナー
- ③ 昼食交流会

※参加人数確認のため、  
申込みをお願いします。

おみやげ  
あります



問い合わせ先：地域支え合いセンター（熊野町高齢者支援課） 082-820-5605

主催 川角大原ハイツ自主防災会（仮称）代表：城後伸行  
 共催 熊野町社会福祉協議会、熊野町（危機管理課・地域支え合いセンター）  
 協力 安芸消防署、熊野町消防団  
 後援 川角自治会自主防災会、広島大学防災・減災研究センター、日本技術士会中国本部  
 建設コンサルタンツ協会中国支部防災委員会、広島県災害復興支援士業連絡会  
 大原ハイツ復興の会

連携体制



避難訓練

交流会